

# ポローニャ大学協定留学 月例報告書（12月）

芸術文化学科4年 土居優莉

## Buongiorno!

Buongiorno! 芸術文化学科4年の土居優莉です。いよいよ12月になりました。街のどこを歩いてもイルミネーションが光り、クリスマスを感じます。

## 授業と試験について

10月から続いている授業もだんだんと終わりに近づき、イタリア語の授業では口頭での試験がありました。ひとつ目は自分の国について紹介するプレゼンテーションでした。地理、言語、政治、文化などさまざまな視点から日本について紹介しました。また、私のクラスにはドイツ、スペイン、オランダ、アルゼンチン、ブラジル、ウクライナの学生がいたので彼らの国についてのプレゼンも聞くことができました。ふたつ目はイタリア映画についてペアで紹介する試験でした。私はスペイン人の友だちとペアを組み、“La vita è bella”を紹介しました。そして最後は先生と1対1の課題図書についてのインタビュー形式の試験でした。準備して発表するプレゼンテーションとは違い、その場で質問されることに対して答えなければならないので、なかなか言葉が出てこない場面もありとても難しかったです。どれも簡単な試験ではありませんでしたが無事に単位を取得することができ、今はほっとしています。

そのほかの授業の試験はすべて数ヶ月後にあります。友だちがノートを見せてくれたり、わからなかった部分をあとから説明

してくれたりしているので、試験に向けて引き続き勉強したいと思います。

## 授業で仲良くなった友だち

12月に入って授業で仲良くなった友だちと出かける機会が増えました。まず、ポローニャで美味しいと有名な日本食レストラン「Yuzuya」へ行きました。たこ焼きと餃子を前菜として注文し、そのあとに各々カレーや豚カツ定食などを食べ、最後にデザートに雪見だいふくを食べました。日本人の私にとっても、みんなにとってもすごく美味しかったです。



↑日本食レストランでの食事のようす

また、今月のオペラ“LA TRAVIATA”も一緒に観に行きました。劇場も変わり、衣装や演出も今まで観たものよりも近代的で新鮮でした。私の友だちは主にイタリア人と中国人なのでお互いの国の食べ物や文化、言語などの話でよく盛り上がります。中国人の友だちが家で手料理を振る舞ってくれたこともありました。本格的な家庭の中華料理は初めてでしたが、本当に美味し

くて驚きました。12月でイタリア語の授業が終わってしまったので、このように友だちと過ごす時間はイタリア語を勉強する機会としてもさらに貴重な時間になります。1月以降にもたくさん約束があるので、楽しみながらイタリア語も練習できるといいなと思っています。



↑オペラの前にごはんを食べました



↑家庭の中華料理

### イタリアでのクリスマス

12月に入ると留学生の間ではクリスマスをどのように過ごすかという話題が飛び交うようになりました。私は、幸せなことにハウスメイトの1人が実家へ招いてくれたので、クリスマスを含む4日間をリエティで暮らすご家族のもとで過ごしました。リエティはローマから車で1時間半ほどの距離にある小さな街です。日中はローマ観光

や、マルモレの滝、オルビエトやバーニョレージョという街など、車でいろいろなところへ連れて行ってもらいました。キリスト教においてクリスマスは、復活祭などと並び1年でもっとも大切な行事のひとつです。そのため日本での過ごし方とは違い、家族でそろって過ごします。毎日家に帰ると暖炉の火で焼いたお肉やワインをみんなでいただきます。クリスマスイヴの24日の夕食には魚料理が並び、ワインは白ワインでした。カトリックの国であるイタリアでは、キリスト誕生の前日はキリストの肉と血、つまりお肉と赤ワインを控えることによって清めを行うそうです。またハウスメイトのご両親はポーランド人だったので、ポーランドのサラダやドルチェが並んだり、食べる前にポーランド語でお祈りをしたりと、本当にここでしか経験することのできないクリスマスでした。夕食後はみんなでクリスマスの映画を観て過ごし、日付けをまたぐすこし前に家を出て、近くの教会で行われるミサに参加しました。厳かな雰囲気ですこし緊張しましたが、心を込めてお祈りしたり歌を歌ったりしました。25日の夜には、近所にある友人家族の家に行きお互いの家族全員でカードゲームをしました。

イタリアで家庭でのクリスマスを経験することができるとは思ってもいなかったのですが、今回招待して下さったご家族には本当に感謝しています。実際に一緒に過ごすことで、キリスト教におけるクリスマスの大切さを心から感じることができました。日本では知ることのできなかつたことがたくさんあり、今後のクリスマスの過ごし方を考えさせられる貴重な経験になりました。



↑コロッセオの前で



↑クリスマスの飾り Presepe

### おわりに

2022年は留学に来られることが決まり、憧れであったイタリアで年を締めくくることができました。初めて見るものばかりで毎日生きるだけで疲れてしまうくらい充実しています。それと同時に、大変なことがあっても乗り越えて楽しく過ごすことができているのは本当にたくさんの人の支えがあってこそのことだと強く感じます。2023年もたくさん勉強して、イタリアで新しくできた友だちとたくさん楽しいことをしたいです。日本に帰るときにひとつも後悔がないように毎日を大切に過ごしたいと思います。

今月もありがとうございました。